

略取した宝箱は？

- ① なし
- ② 宝箱02
- ③ 宝箱03
- ④ 両方とも

・街・

ウーズその他の怪物との戦
闘を終えると、更に奥へと続く洞窟
内の隧道を進む。比較的容易な道行きで
あった。きつい登攀はなく、足元も安定して
いた——ただ狭い岩の道が上方へと続してい
る。やがて「この道には、部分的に人間の手
が加えられているのではないか？」と疑念
を抱くようになった。それから二時間ほど
して、いきなりこの疑念に対する次なる証
拠が出てきた——前方より話し声がするの
だ。息をひそめて前進する。進むにつれ声
は大きくなり、やがて「商人」「通商」「グ
ルームハイヴン」など、いくつか単語を拾う
ことができるまでになった。

岩陰から覗きこむ。ふたりのローブ男が、
小部屋のような場所で立ち話をしている。部
屋の左側には、木製の天井を抜ける上り階段
があった。男のひとりの袖には、縫い取りが
あった。その紋章は、髑髏を貫く剣であった。

選択 A： 男たちに襲いかかる。

選択 B： 階段を忍び足で登る。

C1-3

: 壁の影に沿って、音を立て
ないようにしながら、向こうの階段までゆっく
りと歩みを進めた。ありがたいことに、男たち
はこちらに背を向け、最近グルームハイヴンで
の拠点確保に失敗した、などと話していた。更
なる作戦が必要だ。だが〈首都〉での作戦は
堅実で誰も逃げようがなく一網打尽だ。

そろりそろりと階段を登り、やがて話し声は
聞こえなくなった。続く先は迷宮のような生地
工場だった。隠密行動を心掛け、やがて街路に
出た。誰にも見とがめられないことを祈るしか
ない。

各人5XPずつ獲得

さもなくば：階段へ向かって、そろりそろりと
近づいていく。だが残念なことに、ぬかるみに
足を取られたとき、男のひとりが振り向き、大
声で叫んだ。上階からは、大騒ぎの物音が伝
わってくる。

必死に駆け抜け、階段を駆け上がると、そこ
は工場だった。武装した男たちが追いかけて来
たので、逆方向に逃げた。工場は迷路同然だっ
たが、止まらず進むと街路に出た。ともかく走
り続け、追っ手をまけるよう祈った。

各人2枚ずつ、捨て札にする。

4 創発的証拠

開始条件：なし

目的：逃亡もしくは殺人をやめさせる

序幕：

工場から少し離れて、やっと落ち着いて状況を把握できるようになった。ここは街の北部の工業区だった。もちろん、さきほど這い出してきた帝国山脈に、ほど近い。この手の区が増えたのは最近のことで、クワトリルの技術流入の賜物だった。

これまで足を踏み入れたことがない区画だ。土地勘のないこの辺りを離れ、南方の街の中心部に向かうのが得策だろう。なるべく目立たぬよう気をつけながら先を急ぐと、前方でひとりの男が悲鳴を上げた。

「バレたか」と思った瞬間、男は痛みあまり体をふたつに折った。周囲から人々が手を貸そうと駆け寄ったが、どうすることもできない。男の皮膚を突き破り、体内から何匹もの大蛇が飛び出すさまを見て、さすがの諸君も怖気を震った。

今や誰もがパニックで絶叫し、凍りついていた。だが諸君は行動に移った。他の誰ひとり危害を加えられる前に、蛇どもを駆逐する。その決意の裏で、この一件にはどこかでシンセラが関係しているのだろうという思いがよぎった。

特別ルール：

a の各ヘクスに、番号があるシナリオ補助トークンを、ランダムに1枚ずつ配置し、数字の面を公開します。後に公開された部屋で別の **a** ヘクスが登場したら、同様の処理

を実行してください。これらは一般市民で、HPは各(3+L)x0。パーティの敵であると同時に、他のモンスター・タイプの敵でもありません。モンスターが狙いを定める際には行動順位50であるとみなされますが（他の条件が一緒ならより番号の小さな一般市民を狙います）、召喚獣は一般市民を狙いません。

いかなる理由であれ、倒された一般市民をあらわすトークンは、他のものとは混ぜずに別にしておいてください（後に公開される部屋に、新たな一般市民を配置する際、別にしておいたトークンを再使用しないようにしてください）。



使用する
地形タイトル：

H2b
M1b
F1b
I1a

- 大鎖蛇
- 黑夜の魔神
- カルト信者
- 宝箱 (x1)

- イバラ(x4)
- 茂み(x4)
- 樽(x3)
- 木箱(x2)
- 噴水(x1)
- 陳列棚(x2)
- テーブル(x1)

1

道をさらに進み、広場に向かった。かつては賑やかな喧噪で溢れていたのだろうが、今やヒステリックな恐怖に包まれ、皆その場で凍りついていた。しかも諸君のいきなりの到来に気づき、この蛇の爆発的誕生に関係しているのではないかと訝しんでいる。

何を話しても聞かぬ耳はもたなかった。その間にも、何人かが例の痛みに耐えかね、体をくの字に折りはじめた。さらに悪いことには、噴水のなかから漆黒の存在が湧き出してきた、その長く鋭い鉤爪で人々を襲いはじめたのだ。

おそらく噴水にこそ、この一連の恐怖の謎の答えがあるに違いない。

特別ルール：

次のラウンドを最初として、それ以降も3ラウンドごとに、そのラウンド開始時、マップ上で最も数字の小さい一般市民は死亡し（マップ上から除去し）、そのヘクスを起点として大鎖蛇を4体発生させます。キャラクターが2名ならすべて通常の、3名なら2体は上級の、4名ならすべて上級の大鎖蛇です（発生させるべきヘクスが埋まっていたら至近の空ヘクスに発生させるというルールを思い出してください）。

このシナリオで各キャラクターは、手番で上ボックスもしくは下ボックスの実行を諦める（効果なしで捨て札にする）ことで、探索アクションを実行

できます。噴水の隣接ヘクスで探索したのなら、①の文章を読み上げてください。

扉 ② は施錠されています。

②の扉を開けたのなら、次ページの②の文章を読み上げてください。



3

必死に探してはみたものの、噴水からは何ら疑わしいものは見つからなかった。最初の被害者に立ち返り、遺体から何かおかしな点が見つからないか調べ直してみよう。

蛇が飛び出してくること以外に、何か異常な点はないだろうか？

特別ルール：

ヘクス ① で探索をしたなら、④の文章を読み上げてください。

4

大きく口を開いた傷がたくさんあり、内臓が露出している以外に変わったことといえば、足に何本ものイバラの棘が刺さっていることだ。広場の一角にあるイバラの茂みに、何か目ぼしき手掛かりが隠されているかもしれない。

特別ルール：

ヘクス ③ で探索をしたなら、⑤の文章を読み上げてください。

5

人を遠ざけるこの茂みを探してはみたものの、残念なことに何の手がかりも見いだせなかった。というのも、このイバラの棘は、遺体の足に付着していた棘とは違う種類だったからだ。付近の違う藪からのものに相違ない。

特別ルール：

ヘクス ③ 以外の3つのイバラ・ヘクスを手分けして探索し、全イバラ・ヘクスの探索が終わったら、⑥の文章を読み上げてください。

6

藪を探っていくうち、何本かのイバラが意図的に折り取られている一角を発見した。そこから葉や断片の痕跡が、正面の館にまで続いている。

さあ、扉をぶち破る時間だ。

特別ルール：

扉 ② は物標でもあり、そのHPは(3+L)xC。破壊されたら解錠されて開き、次ページの⑦の文章を読み上げてください。

首都の陰謀 4: 創発的証拠

2

市民が死のうがどうしようが、諸君に関係はない。既に、身に覚えのない窃盗で無実の罪を着せられているのだ。衛兵が到着して、この市民虐殺の罪まで着せられないうちに逃げるにしくはない。

とはいえ、言うは易く行うは難し。計画的かどうかはわからないが、この区画は嚴重に封鎖され、逃げ道を閉ざされていた。さらには、この裏路地では、さらに多くの市民が苦痛でたうち回っていた。その向こうは、木製のバリケードだ。

またいくつか悲鳴が上がり、蛇どもがひとびとの腹を食い破って飛び出して来る。一刻も早くこの場を離れるべきではなかろうか？腹を決めるなら今だ。

特別ルール：

3ラウンドごとの市民の死亡と蛇の発生のルールに関しては、まずこの部屋で最も数字の小さな市民に適用してください。この部屋の全市民が死亡して初めて、元の全マップから最も数字の小さな市民を選ぶようにしてください。

この部屋の各1ヘクスの障害物は物標でもあり、HPは(3+2L)xC、装甲 1、反撃 2です。これらの障害物は移動できず、コマが通過することもできません。

全キャラクターが各ヘクス ① にいるかヘクス ① で脱落したら、全員脱出したことになります。ヘクス ① 以外でいずれかのキャラクターが脱落したら、脱出は不可能になります。脱出できたら、終幕Aを読み上げてください。

終幕A：

現場から逃げ出すと、背後から追いかけて来る市民の悲鳴が耳の中に残り続ける。関わらないようにし続けているが、ふと「避けられないことを先延ばしにしているだけではないか？」という疑念が浮かぶ。降りかかる火の粉は、いつか払わねばならぬのだ。

報酬：

各人10XPずつ

「市民全12人死亡」と記録しておくこと



7

その小屋の扉を蹴破った。奥にローブの男がおり、何らかの儀式を執り行っている。特徴的なローブで、すぐわかった。

「私を見つけたというわけですね」男は動ずる気配もなかった。「問題ありません。私には、皆さんを殺すのに十分な力があります。



少し計画を修正すればよいだけです！」

足元から、更なる魔神どもが姿を現した。そして男は、新たな詠唱を始めた。

特別ルール：

3ラウンドごとの、市民の死亡と大鎖蛇の発生は、もう実行しません。

カルト信者のHPはHxC/2（端数切上）。Hは、データシート上のカルト信者（上級）のHPです。生ける骸骨を召喚する場合、そうせず代わりに大鎖蛇（上級）を召喚します。

公開された全敵を倒したなら、このシナリオは成功裏に完遂となるため、終幕Bを読み上げてください。

終幕B：

いかなる理由であれ、無辜の市民の命、これ以上この怪物どもの手にかけさせるわけにはいかない。この醜悪な殺人劇を引き起こしていた当事者は死んだ。衛兵隊が駆けつけてくる時分には、諸君の行為を正当化してくれるだけ十分な数の市民が生き残っていた。この騒動が諸君のせいではないと、証言してくれることだろう。

とはいえ脱獄したばかりの諸君は、衛兵の到来を歓迎する気分ではなかった。タイミングを見計らい、現場を離れ、街の中心である南へと向かった。

報酬：

各人、マップ上に残った一般市民の人数の5倍のXP獲得。

ゲーム中に死亡した一般市民の数を記録しておくこと（物語を読みあげている間に死亡した者は除く）。